

比較文化専攻博士（課程レベル）アセスメント・ポリシー

2026年度生以降

1. ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	
DP1	比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。
DP2	文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。
DP3	専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。
DP4	比較文化の視点に基づく研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに国際的協働に貢献することができる。

2. アセスメント・ポリシー／アセスメント・プラン

#	アセスメント・ポリシー (アセスメント項目)	アセスメント・プラン (アセスメント方法)	対応するDP								責任主体	備考	
			DP1	DP2	DP3	DP4							
共通基礎アセスメント項目													
1	GPA	年間GPA分布と通算GPA分布を集計し、平均GPAと通算GPA2.0以上の学生の比率につきアセスメントを行う。	◎	○								研究科執行部	
2	成績評価	成績分布と単位修得率を集計し、アセスメントを行う。	◎	○								研究科執行部	
3	在学生調査	在学生意識調査の調査回答率と各設問の回答結果を集計し、アセスメントを行い、退学率と休学率についても検証する。	○	◎								研究科執行部	
4	海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等	各海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等の参加者数と参加率を集計し、アセスメントを行う。			◎	○						研究科執行部	
6	学位授与	学位授与数と学位授与率を集計し、にまサアセスメントを行う。			○	◎						研究科執行部	
7	修了後の進路	就職率を集計し、アセスメントを行う。			○	◎						研究科執行部	
8	修了時調査	修了時調査の調査回答率と各設問の回答結果を集計し、総合満足度と成長実感につきアセスメントを行う。		○	○	◎						研究科執行部	
論文作成過程アセスメント項目													
13	研究計画書	研究テーマの適切さ、計画の実行可能性、計画書の適切さについて主指導教員を中心に評価する。	◎	○								研究科執行部	主指導教員がアセスメントを行う。
14	資格試験 (Qualifying Examination)	博士論文作成資格試験 (3分野) と外国語試験の成績によって評価する。	○	◎								研究科執行部	主指導教員と副指導教員がアセスメントを行う。
14	論文作成計画審査 (Prospectus)	論文テーマと研究目的、研究方法の適切性、論文の構成、論旨の妥当性、参考文献と資料の提示方法の適切性、今後の展望について、提出された論文作成計画書と口述試験で評価する。	○	◎								研究科執行部	主指導教員と副指導教員がアセスメントを行う。
15	博士論文予備審査	博士論文提出の可否について、提出された博士論文の原稿に基づき論文審査と口頭発表・質疑応答によって評価する。	○	◎								研究科執行部	主査と副査がアセスメントを行う。
16	博士論文審査	博士論文は、「人文科学研究科大学院課程修了要件」に記載の審査方法と審査基準に基づいて評価する。		○	○	◎						研究科執行部	主査と副査がアセスメントを行う。